**【小児看護学】**

**事　例**

|  |
| --- |
| 実習部署は学生が実習を行うにあたり、施設の構造やスタッフ数、週間スケジュールなどの部署に関する情報を事前に教育機関へ提示しており、教育機関の教員はそれらの情報を実習前に学生へ周知している。また実習初日には、実習指導者が学生へ部署についてのオリエンテーションを実施している。  学生は実習要項にある実習目的や目標、教員から事前に伝えられた部署に関する情報を基に、学習目標を立てた上で実習に臨む。  ＜状況１：学生の目標設定への実習指導＞  実習初日の朝、学生の学習目標を確認すると「１日の流れを知る」「実習部署の概要を知る」「どのような子どもと家族が来院（入院）しているのかを知る」「健診の流れを知る」「入院中の過ごし方を知る」などといった目標が立てられていた。  ＜状況２：カンファレンス時の実習指導＞  　今回の実習では実習後に30～60分程度のカンファレンスが予定されている。学生が所属する教育機関は、このカンファレンスの目的を「それぞれの学生が学修内容を共有し、子どもの最善の利益を守るための看護師の役割について理解を深めること」と定めている。カンファレンスの進行は学生たちが行い、実習指導者にはカンファレンス中のコメントが求められている。 |

**課　題**

学生への指導を展開してください。不足の情報はグループごとに適宜設定してください。

＜状況１：学生の目標設定への実習指導＞

学習目標を確認する場面だけでなく、実習初日に学生に対して、どのような指導案（日案）を立てることができるのかを検討してください。

＜状況２：カンファレンス時の実習指導＞

　カンファレンスに参加する学生に対して、どのような指導案（日案）を立てることができるのかを検討してください。

参考：本学小児看護学領域の実習目的・目標

**目的**

乳児・幼児・学童・思春期にある子どもとその家族の健康レベルを理解し、変化する社会の中で、子どもと家族が人間として尊重され、その人らしく生き生きと生活できるように、それぞれの健康レベルに応じた援助を考える。

**目標**

・子どもとその家族（成長発達、生活状況、健康状態）を理解するとともに、子どもと家族を取り巻く環境を認識し、その影響を考察することができる。

・子どもとその家族の健康の保持、増進、回復のために、適切な情報を収集、分析し、既存の知識・技術を発展させて援助することができる。

・子どもとその家族のニードに応じて、子どもと家族の尊厳と権利を擁護した援助をすることができる。

・他領域の専門家と協力する重要性を認識し、調整的な機能を理解し、説明することができる。

・変化する社会に応じた小児看護の役割を考察することができる。